

令和8年度 第1回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会【議事概要】

1 日時及び場所

令和8年6月18日（木）10時00分～11時30分

四国森林管理局 局議室（対面・WEB）

2 議題

- (1) 管内における木材需給、価格動向等について
- (2) 各分野における現状や今後の見通しについて
- (3) 意見交換
- (4) その他

3 議事概要

【委員会の検討結果】

木材需要については、住宅着工の減少に伴う需要の減退が予見される一方、円安の進行等の影響により、管柱や間柱等の建築用材について、輸入材から国産材へと代替が進む動きが見られるところである。

四国管内においては、ヒノキの製品需要が弱く、ヒノキ原木が供給過多の状況にあることから、ヒノキ原木の引き合いが弱く昨年末から価格が下落傾向にある。

また、一部製材工場では入荷量を抑制する動きも見られるところである。

以上の状況を踏まえ、ヒノキ原木の供給を抑制するため、国有林において搬出期間が迫っている売買契約済みのヒノキを含む立木販売物件の搬出期間の延長を行うことが望ましい。

引き続き、原木市場や製材工場におけるヒノキ原木の需給動向を注視しつつ、地域の実情に即した更なる供給調整の対応を含め検討することが必要である。

【主な意見等】

○ 素材生産業

- ・ 高知県内の原木生産量は、第4四半期は前年同期比で増加。中東情勢の影響等により、燃油や資材等の高騰、資材調達により生産活動の低下が懸念される。
- ・ 生産活動は比較的安定している。ヒノキの動きが鈍く価格が下落傾向。住宅着工数が減少傾向で供給過多になりつつあり、民有林生産量とのバランスをみて供給量を計画して欲しい。
- ・ 地域によっては天候不順により生産活動が遅れている。作業従事者の不足等もあり円滑な生産活動ができていない。

○ 原木市場等

- ・ 買い気は弱く入荷も少ない。スギの価格は大きく変わらないが、ヒノキは弱め。物価上昇も続いており、今後は値下げの方向には進んでいかないと思われる。

- ・ 入荷量は順調で増加。スギは引き合い変わらず、ヒノキは製材工場の原木在庫過多で引き合い鈍い。今後は梅雨や虫害の懸念もあり入荷は減少すると思われる。スギの価格は引き続き横ばいで推移し、ヒノキは構造材用・合板用材が低調。集成材用は横ばいで推移。

○ 製材工場等

- ・ 製材工場の原木在庫過剰となり、入荷量を臨時抑制。工場稼働、生産は順調に推移。今後は通常のお原木仕入量・調達ペースに戻る予定。製品販売量は、月により需要の乱高下が激しい。安い下級材が売れる傾向で採算は厳しい状況。今後の荷動き、製品価格の動向は、中東情勢もあり極めて不透明。他方、輸入材から国産材への移行が進んでいると感じている。今後、ヒノキ原木が弱含んでいる影響による出材減少を懸念。
- ・ 虫害、梅雨時期で出材が悪くなっており、ヒノキ価格は下がり、スギは下がっていない。スギ製品の一部に引き合いがあるが全体的によくない。先行きの見通しがつかない。輸入材から国産材への代替需要、内装材など住宅以外の需要創出に期待。
- ・ 建材卸売りにおいては、建築用材の出荷量は減少し価格も下落。必要なもの以外は売れない。出荷・価格共に下落予測。建築業界は、一度上がった建築費は下がらない。